

日越友好高齢者介護セミナー開会の挨拶

ホーチミン市立幼児師範学校長 チャン ティ ゴック チュック Tran Thi Ngoc Chuc

思い起こせば7年前、同じく、ここホーチミン市立幼児師範学校にて、私は、藤本文朗先生と共に、ホーチミン市ではじめて開かれた大学レベルの障害児教育教員養成課程の開会式に参加しました。当時、藤本先生は滋賀大学教育学部障害児教育学科の教授をされており、また「ベトちゃん和ドクちゃんの発達を願う会」の会長も兼任されていました。日本の皆様から専門性の向上と資金面の両方に渡るご支援をいただき、幼児師範学校はハノイ師範大学と協力して、先の養成過程を2期にわたって実施し、52名もの卒業生を輩出してきました。これらの卒業生たちはホーチミン市内の各区・各県の教育局やホーチミン市師範大学・第3中央幼児師範短期大学の中心的な幹部や教員として活躍中です。また、幼児師範学校では2001年からこれまで、障害児教育専門グループを組織し、専門学校レベルで幼児教育を学ぶ正規の学生、あるいは6ヶ月間の短期養成や現職教員の再養成コースを受講している学生が、障害児教育関連科目も学び、将来、幼稚園や養護学校でその力を発揮できるよう取り組んでおります。これらは教育訓練省、ホーチミン市教育訓練局の指導の下、戦略的に実施され、ホーチミン市におけるインクルージョン教育の先駆けとなっています。

そして、藤本先生のご紹介と、ホーチミン市教育訓練局の承認を受け、何度となく話し合いを重ねた結果、大阪健康福祉短期大学と幼児師範学校は、2005年12月26日に学術交流協定締結式を実施しました。この学術交流協定を基に、本日のセミナーの開催に至ったのです。

また、今年11月には、日本の首相が日本経団連関係者と共にベトナムを訪れ、ハノイで開催されたアジア太平洋経済協力会議(APEC)に出席、ベトナムの企業関係者とのフォーラムでベトナム北部と南部を結ぶ鉄道と高速道路の建設、ホア・ラックハイテク工業団地の建設プロジェクトの今後が話し合われました。

同会議の成功、そして、日越間の友好関係がさらに深まる中、今日ここに、私たちホーチミン市立幼児師範学校は、大阪健康福祉短期大学とともに、「日越友好高齢者介護セミナー」を開催することとなりました。私たちは、ここで再び新たな一歩をともに踏み出すこととなったのです。このセミナーが、専門職としての高齢者介護職員を養成するという新しい分野の原点となり、目覚ましい経済発展を遂げるドイモイの時代におけるベトナム社会のニーズに対応しうるものとなるよう願っています。これは、私たちベトナム人の美しい伝統文化にふさわしい、全人的な取り組みでもあります。古くから伝わるベトナムの短歌やことわざに、「絹の糸のように白くなってしまった母親の髪。腰が痛ければ子どもが支え、目が見えなくなれば子どもが養う」とあるように、昔からベトナムでは、子どもたちに両親の教えを説き、年老いた父と母を扶養するよう教育してきたのです。

セミナー実行委員会を代表しまして、ここに参加して下さった皆様、特に、大阪健康福祉短期大学から参加し、今後のベトナムにおける活動の基礎となる専門的な知識やスキルを私たちに伝授して下さる先生方に、心から感謝の気持ちを申し上げたいと思います。

私たちの協力関係がさらに密接となり、長期にわたり継続され、そして、最高の成果を収めるよう、祈っております。